Appendix.

東京2020大会に向けた取り組み 『KEIO 2020 project 2020年度活動報告』

Appendix.

東京2020大会に向けた取り組み 『KEIO 2020 project 2020年度活動 報告』

■2020年度の活動の総括

2020年東京オリンピック・パラリンピック の事前キャンプで日吉キャンパスに訪れる英 国チームをサポートする学生ボランティア組 織として2016年度からスタートさせた本プロ ジェクトであるが、2020年度は東京オリンピッ ク・パラリンピック開催の記念すべき年とな り、KEIO 2020 projectの活動においても集大 成の一年となることが期待されていた。しか し、春先以降、世界中で新型コロナウイルス 感染症(COVID-19)の世界的な感染拡大に ともない、オリンピック・パラリンピック史 上前例のない大会の「延期」が決定した。同 様に、事前キャンプも予定の変更を余儀なく されることになった。義塾においても、安全 を最優先に卒業式や入学式等の諸行事を延期 ないしは中止せざるを得ず、その後、政府に よる緊急事態宣言を受けて大学キャンパスは 一時閉鎖、授業は対面型からオンライン型に 切り替わることとなった。

このような状況の中でも、KEIO 2020 project メンバーは工夫を凝らし、オンラインでの活動を中心に可能な限り受け入れ準備活動を展開した。各種活動にあたっては、未来先導基金および所内研究費の採択を受けており、限られた活動範囲ではあったが、学生主体の活動を支えることができた。体育研究所では、活動代表者として石手靖君、人文社会領域アンケート担当として村山光義君、地域スポーツ振興教育担当として村山光義君、オリンピズム教育(国内)担当として須田芳正君・坂井利彰君、ボランティア活動教育担当として永田直也君・福士徳文君・東原綾子君・寺岡英晋君、国際交流教育・他教育機関ジョイント担当・プロジェクトコーディネーターとして稲見

崇孝君がチームとなって学生の主体的な活動 をサポートした。それぞれの助成に対する活 動報告は以下を参照されたい。

◆参照

□2020年度未来先導基金:

(http://www.dff.keio.ac.jp/activity/programs/2020/04_detail.html)

□体育研究所所内研究費:p11を参照

活動の詳細は、「活動の足跡」として次項 に記載する。活動のコンセプトはこれまでと 同様、2020年に開催されるオリンピック・パ ラリンピック大会において実際にボランティ ア活動を行うまでに、経験・実践・準備して おくべき活動・取り組みを学生主体で考え、 学び、その過程で培った力をもって British Olympic Association (以下、BOA) · British Paralympic Association (以下、BPA) を最 大限にサポートすることである。体育研究所 としては KEIO 2020 project の活動を推進す るにあたり、本プロジェクトに関わる学生自 らが"知り"、"考え"、"養う"過程で蓄積・ 形成される【人間の生きる力】を育成するた めに、学生主体の活動を支えながら成長を促 す教育的側面と、本プロジェクトを通して学 生がどのように成長・変容したかなどを、各 種研究手法を用い分析・検証する研究的側面 を合わせ、教育研究機関としての使命を全う したい。

2020年度は、制約が多く不自由な状況下にあり、企画・イベント数は例年に比べると大きく減った。しかし、苦しい状況の中でも活動を継続する強い意志を持ち、学生がアイデアを出し合い実現した企画もあった。今後も継続して若い世代の豊かな人間の醸成を促す精神的なレガシーをスポーツの側面から確立する【KEIO スポーツレガシー】を共創していきたい。

■2020年度 活動の足跡

 日吉キャンパスバリアフリーマップ製作 活動(通年)【図1】【図2】

BOA・BPAが日吉キャンパスを拠点に活動を行うことから、そのサポートを目的として2019年5月より開始された日吉キャンパスバリアフリーマップ製作活動を継続した。本活動はまた、「もう一つのオリンピック」と呼



図1 日吉記念館調査の様子

ばれるパラリンピックに関わる活動を契機に 多様性の尊重と、障がい者を理解する"心の バリアフリー"を塾内外に発信し、浸透させ ることを狙いとし、当該領域の専門家ととも に問題提起・課題解決を目指している。本 マップは障がい者など異なる条件を有する 方々と共に作り上げることで障がい等に対す る理解を深める過程を重要視している。

マップ作成には構想段階から経済学部・日吉心理学教室・中野泰志教授や車いすユーザーの方々のご協力を得ながら、マップ完成に向け塾長室、協生環境推進室、日吉運営サービスとの協議を重ねてきた。また、新・日吉記念館の完成を受け、新たにバリアフリー状況の調査とオンラインミーティングを複数回にわたり実施し、マップ編集を行っており、2020年度末にはマップの総仕上げ段階に入っている。



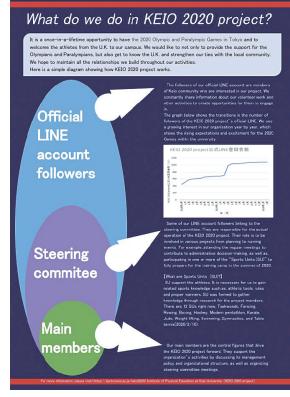
図 2 マップ表紙(2021年2月現在)

2. 慶應スポーツ SDGs シンポジウム2020に おける活動紹介動画展示 (8月18日オンラ インにて開催)【図3】

延期されていたシンポジウム(2月29日に開催予定であった)がオンライン開催に形を変えて開催された。このシンポジウムは、東京2020イヤーに考える"持続可能なスポーツ・身体活動について行うべきこと"を発信するため、慶應義塾大学スポーツ医学研究センターおよび大学院健康マネジメント研究科によって共同開催されたもので、これまでの活動を紹介動画として展示した。KEIO 2020 projectのこれまでの活動の軌跡はもちろんのこと、今後の展望を動画にまとめた。





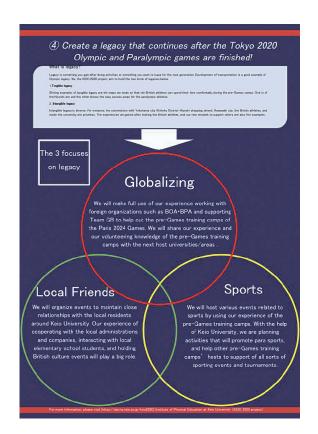












3. 横浜スポーツビジネスカンファレンスに おける発表(開催延期)

横浜市スポーツ協会主催のスポーツビジネスカンファレンスin 横浜2021が開催されるにあたり、<スポーツと SDGs コロナ禍でスポーツに求められるものと東京2020大会に向けた取組の紹介>と題して KEIO 2020 project の活動紹介の機会を得た。活動を周知すべく発表準備を進めていたが、新型コロナウイルス感染拡大による再度の緊急事態宣言発令に伴い、開催延期が決定された。



図3 活動紹介動画掲載スライドの抜粋

4. ボランティア研修会の実施(12月11日) 【図4,5】

BOA・BPAの事前キャンプの受け入れ準備として、スポーツボランティアとして活動を行う上で必要な心構えを学ぶべく、ボランティア研修会を開催した。講師には、日本ボランティアネットワーク公認講師で塾員の竹澤正剛氏を招き、竹澤氏の豊富なスポーツボランティア経験に関する講演を中心として、活発なグループディスカッションを通してメンバー内で意見交換が行われた。

本研修会はオンラインで開催されたが、研修会後、参加学生からは「貴重な体験談を聞け、知識が身についた」、「スポーツボランティアにおける重要な心構えを学ぶことができた」という声のほかに「ディスカッションを通して、人それぞれ様々な意見があることを学べた」などの感想が寄せられた。また、ディスカッションを通した学び、イベントを通じて今後も仲間とのつながりを実感し、ボランティア活動へのモチベーションにつなげたい、という思いがより強くなった企画となった。



図 4 研修会告知ポスター



図5 研修会の様子

5. アスリート交流会(2月28日)【図6, 7】

事前キャンプ受入時に、より選手に寄り 添ったボランティア活動を志すべく、現役ア スリートへのインタビュー形式のオンライン トークイベントを開催した。講師には、トラ ンポリン競技現役アスリートで塾員の棟朝銀 河選手を招き、20年にわたるトランポリン競 技経験、そしてリオデジャネイロオリンピッ ク出場経験を基に、競技アスリートにとって のオリンピック舞台の特別性やコロナ禍にお ける心境、そして、ボランティアに期待する ことなど、KEIO 2020 project メンバーから 寄せられた多岐にわたる質問に回答いただい た。本交流会を通して、コンディションを整 えて大会に挑むアスリートの立場に立ったサ ポート実現のためのポイントを共有でき、事 前キャンプでの活動に期待が高まる企画と なった。



図6 交流会告知ポスター



図7 交流会の様子

6. KEIO 2020 project Year book (2019) の 発行(3月)【図8】

2018年度に続き2019年度の活動をYearbook としてまとめ発行した。発行までに時間を要 したが、デザインから内容の構成まで全て学 生のみで完成させた。株式会社アド・プリント様には、例年に引き続き、完成に至るまでにソフトウェアの操作やデータの編集・保存方法等を直接指導いただいた。重ねて御礼申し上げたい。



図 8 KEIO 2020 project Year book (2019) 表紙

■課題と展望

2020年度の活動は、未来先導基金から3年計画の3年目にあたるプログラムの採択通知を受けており(採択名:東京2020オリンピック・パラリンピック英国サポート【KEIO 2020 project】を通じたKEIO スポーツレガシーの共創、代表:石手靖君)、これを基にボランティアサポート本番の活動と、事前キャンプ終了後のレガシー獲得のための活動をサポートしていく予定であった。本基金採択を受け、計画していた活動は2021年度に持ち越されることとなったが、活動のコンセプトはこれまでと同様、「実際にボランティアを行うまで

に、経験・実践・準備しておくべき活動・取り組みを学生主体で考え、学び、その過程で培った力をもってBOA・BPAを最大限にサポートすること」にある。

2020年度は、長期化するオンラインベースの活動の継続には、学生同士のコミュニケーションや活動へのモチベーション維持においてこれまで以上の工夫と努力が求められた一年であった。具体的には、オンラインミーティングにおける意見交換の機会を増やすことから、教員とのオンライン交流会の開催、他大学のボランティア団体との交流会参加に取り組んだ。塾の感染予防対策に則り、対面での

交流会も開催した(図9)。3月には団体発 足当時から KEIO 2020 project を支え続けて きたメインメンバーが卒業を迎える(図10)。 彼らは事前キャンプにおけるボランティア活 動を見据えて試行錯誤を繰り返し、準備を重 ねてきた。集大成となる活動は実施すること が出来なかったが、その過程で得られた経験 こそが今後社会を生きていく上で強い原動力 となる。そしてその意志は共に活動を支えて きた後輩達に確実に受け継がれており、4月 に新しく迎えるメンバーによってまた新たな 色が加えられていく。依然として新型コロナ ウイルス感染症の収束に向けた見通しは不透 明であるが、withコロナからポストコロナ へと社会が推移するなかでも、その大きな変 化を乗り越える"生きる力"を発揮すべき時 であることに変わりはない。



図 9 2020年度新メンバーとの交流会



図10 活動を支えた 4 年生メインメンバー

引き続き、日吉キャンパスが受け入れる競 技種目に関わるボランティア活動を加速させ るとともに、これまで掲げてきた3つの活動 コンセプト:①選手をベストコンディション で選手村へ送り出す、②横浜市、川崎市と ともに地域を盛り上げる、③英国文化を受 け入れ、日本(文化)の魅力を伝える、に加 えて、④これまでの活動を通じて構築した KEIOスポーツレガシーの発信・共有するべ く活動を推進していく。そのために体育研究 所では、2021年に延期となった東京2020大会 終了後も見据えた長期的な価値を創造するこ とを目的とし、塾長室や日吉運営サービス、 学生部、国際連携推進室、体育会など、一貫 教育校をはじめとした関連部署との塾内連携 をより強固にし、"ALL 慶應"体制で【KEIO スポーツレガシー】を共創していく。

最後に、今年度の活動も多くの慶應義塾の教職員と関係企業、地方自治体、団体の方々に多大なるご尽力をいただいた。この場を借りて、御礼申し上げるとともに、今後の活動にも引き続き、ご理解ご協力いただければ幸いである。

【文責:東原綾子】